

きいて・めもして・こたえよう

こうげい し ひと はなし  
でんとうエ芸士の 人の話

なまえ  
名前

きこめあて やまぐち 山口さんの「わざのくふう」と、しごと 仕事への おも 思いを、わ 分けてメモしましょう。

ことば すうじ おも  
おとさない言葉：くふう・数字・思い

やまおり

ほうそう お  
放送が終わったら、ひら 開いて問題にこた 答えましょう。

(1) やまぐち 山口さんは、なん 何を つく めいじん 作る名人ですか。

(2) やまぐち 山口さんが、いちばん 気を つけて いる 作業 は なん 何 ですか。

(3) やまぐち 山口さんは、ひと 一つの わざ を み 身につけるのに、どれくらいかかるといって いましたか。○をつけましょう。

ア いちねん 一年

イ ごねん 五年

ウ じゅうねん 十年

(4) やまぐち 山口さんに、もっと き 聞いてみたいことを、ひと 一つ 「しつもの文」で 書 きましょう。

### すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声流す）。読む回数：2回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

### 放送文

今日は、この土地に古くから伝わる、でんとう工芸を作るしょくにんの、山口さんに来ていただきました。山口さんは、竹をあんで、うつわやかごを作る「竹細工」の名人です。

山口さんが、いちばん気をつけているのは、竹をうすくけずる作業だそうです。竹のあつさを、かみの毛ほどにそろえます。機械は使いません。すべて手で、指の感覚をたよりに、けずっていきます。

山口さんが、この仕事を始めたのは、十五さいのときでした。それから五十年、毎日竹とおき合ってきたそうです。「一つのわさを身につけるのに、十年はかかる」と、山口さんは話してくれました。

山口さんは、「べんりな物があふれる今だからこそ、手作りのよさを大切にしたい」と言います。そして、「このわさを、わかい人につたえていきたい」と、力強く話してくれました。

### メモのれい

でんとう工芸・山口さん（竹細工の名人）

くふう：竹をうすくけずる（かみの毛ほど）／機械を使わず手・指の感覚で

仕事：十五さいで始め、五十年／わさを身につけるのに十年

思い：手作りのよさを大切に／わかい人につたえたい

### こたえと かいせつ

#### (1) 竹細工

「うつわやかごを作る『竹細工』の名人です」の部分です。

#### (2) 竹をうすくけずる作業

「竹をうすくけずる作業だそうです。竹のあつさを、かみの毛ほどにそろえます」と言っていました。

#### (3) ウ（十年）

「一つのわさを身につけるのに、十年はかかる」と話していました。

(4) (例) けがをすることはありますか。／作るのにどれくらい時間がかかりますか。

山口さんの話に関係する「たずねる文（～ですか。）」になっていれば正解です。